KSKP ゆめごよみ風だより　第３種郵便物承認　通巻11880号　2021年3月12日発行KSKP

編集人　特定非営利活動法人　ゆめ風基金事務局

（〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106）TEL06-6324-7702・FAX06-6321-5662

郵便振替00980-7-40043 MAIL　info@yumekazek.com　　WEB　https://yumekazek.com/

一九八四年八月二十日第三種郵便物承認毎月（1・2・3・4・5・6・7・8 の日）発

このテキストの目次

1　東日本大震災から 10年

2　02 あの日から、10年目そして今

3　03 東日本大震災から 10 年

8　第 11 回「東北⇔関西⇔九 州ポジティブ生活文化交流祭」オンライン開催を終えて

9　カンパをいただいた団体/事務局のうごき　会計報告　別紙にて

10　各地からの風だより

東日本大震災から10年　副代表理事　とだ じろう

２０１１月3月11日14時16分、私はある会議のため事務所にいた。休憩時間だったと思うがテレビの画面から流れるニュースに言葉を失った。

いったい何が起きているのか分からない。津波によって流される建物や車などをただただ茫然と見ていたと思う。家に帰って震災の状況が報道によって少しずつ明らかになると被害の大きさがわかり始めた。

ゆめ風基金の設立のきっかけである阪神淡路大震災のことを思い浮かべた。26年前の1月17日に起きた震災である。兵庫から遠く離れた岐阜の私の家も大きく揺れた。テレビから流れる震災の被害の状況。壊れた建物や高速道路。街が火の海になっている映像など信じられない光景であった。震災が起きてどれくらいの時間がたったころか分からないがFAXが届いた。差出人は全障連（全国障害者解放運動連絡

会議）運動を共に取り組んできた友人であり尊敬する、今は亡き大賀重太郎さんであった。そのFAXには障害者の安否状況 や拠点となっている作業所などの被害状況 が書かれており、それが一日に何枚も届く。今のようにＳＮＳがない中で最大限の情報発信ツールであったと思う。その中に「情報集約にバイクが必要」と書かれていた。車 での移動は道路が壊れている等で難 しいのでバイクが欲しいと。私 の家にあるバイクと作業所関係者からのものと合わせて 2台を確保し届けることにした。ワンボックスの車に乗せて運ぶのだが、私 は運転ができないので作業所の職員の女性にお願いをした。ちょうど前から依頼されていた講演があり、それを終えて夜の9時過ぎに岐阜を出発し朝方神戸に着いた。そこで今のゆめ風基金の八幡隆司さんと初めて出会った。何かの作業を依頼され、それらをこなして岐阜へ戻った。その時に緊急避難場所の確保や被災地障害者センターの設立が 行 われた。その後、尊敬する障害者運動の先輩の牧口一二さんと故・河野秀忠さん（ゆめ風基金副代表）を中心に「ゆめ風基金」が設立され、私は岐阜の仲間たちと「とにかくお金が必要だ」と、街頭に立ちカンパ活動を始めた。まだその時にはゆめ風基金のネットメンバーではなかったが、牧口さんから誘われてネット岐阜としてゆめ風にかかわらせていただいている。阪神淡路大震災の後、幾つもの台風や豪雨があり、新潟地震もあり、その都度ゆめ風は被災した障害者の救援に取り組んできた。しかし東日本大震災は被災の範囲の広さや地震・津波・原発の爆発など多様であり、私 は困惑するばかりであった。阪神淡路大震災やその後の災害での救援活動の取り組みや経験が生かされ、被災地障害者センターを幾つも作り、被災地の状況に即した救援活動を行った。そして、ゆめ風基金を中心にした大阪本部、JIL（全国自立生活センター）やDPI（障害者インターナショナル）日本会議を中心に東京本部、これらが連携して様々な救援活動を始めた。被災した多くの障害者の緊急避難場所として戸山サンライズを確保した。その後一定の落ち着きを見た被災地からは、壊れた拠点の再開に向けての救援の依頼が多数寄せられた。東日本大震災が起きた時、牧口代表は「基金のすべてを使ってもいいから被災障害者の救援を」と話された。まさしくその覚悟が必要な

災害であったと思うし、10年を迎える今も救援の依頼は続いている。ゆめ風基金は基金をすべて使い切ってしまい存在が困難になることを覚悟していたが、多くの人たちがカンパをしてくださり、熊本地震や豪雨などの救援活動を今も続けられている。本当のカンパを寄せて頂いた、すべての皆さんに本当に感謝します。

（おおつちちょう役場が被災した写真。 ボランティアが撮影。）

あの日から、10年目そして今　事務局　あべ　しゅんすけ

2011年3月 11 日。東日本大震災から 10年になろうとする。しかし、被災地は未だに完全な復興はしてはいないが、生活はできてはいる…

私 自身も被災障害者です。石巻の自宅前は海で、もちろん津波で家は跡形もなくなりました。

当日僕は、自宅ではなく生活介護事業所にいました。津波被害からは逃れられました。家族も車で避難して幸いにも全員無事でした。

そのあと家族と合流できたので、親戚の自宅に避難しました。

このような災害があった場合、連絡をとるのが困難なのを知っていたので、私達家族や身内同士で震災前から「何か災害が起きたらここに集まろう」と決めていたので、この日も自然にその親戚の自宅に向かったのです。そこで半年間、避難生活をしました。

しかし親戚の家では十数人が３部屋で生活する厳しい状況で、私 に必要なベッドもありませんでした。

仙台市に住む当事者の友達が「たすけっと（障害者団体）が『被災地障害者センターみやぎ』を立ち上げて、障害当事者の方に必要な物資を送ったり、生活上の困り事を手助けしてくれている」と教えてくれました。「あなたも困っている事はないか」と聞かれたので、「福祉用具やら生活用品は、全て津波で流されたので非常に困っている。家の中で使う杖と、寝るときに使うベッド用のマットレスをお願いします」と言いま

した。他にも、浴槽につける手すりもお願いすると、それら全てを、ボランティアの方が避難先の家に届けてくれました。

また避難生活中に「被災地障害者センター石巻」との出会いがあり、避難生活のストレスや苦しさを和らげるよう同じような立場の人が集まれる場も作ってもらいました。

この繋がりがきっかけで、土地勘がない大阪から来たボランティアさんを被災者のところに案内するお手伝いを始めました。

今の日本はどこでも、震災があり、そのたびに障害者の方々は大変な思いをしているのを聞くと、被災経験がある障害当事者の自分には『何かできることがあるのでは』と思うようになりました。しかし僕の知識だけでは勉強不足で何から手を付けていいのやらさっぱりわかりませんでした。震災後から関西の方々がボランティアに来てくれ、たくさん知り合いができました。私も大阪に何度も行き、そこで初めて東北と大阪の福祉レベルが大きく違うことを知り、ショックをうけました。僕自身も大阪に住んで勉強もしたいと思い、２０１９年の６月に宮城から移住しました。これからは、大阪から地元・石巻の障害者や全国各地の被災障害者の方にも、なにかしらの支援が出来たらと思っています。今はゆめ風基金で働いています。どうぞよろしくお願いします。（2021年1月 18 日　記）

東日本大震災から 10年

「東日本大震災から10年」にあたり呼びかけ人代表や被災地のみなさんなどに寄稿いただきました。今号と次号の2回に分けて掲載いたします。

あれから 10年なんだね　小室　等

その時ぼくは新宿駅新南口東急ハンズ二階のフロアにいた。

立っている床が突然右に左に平行移動。慌てて売り場の女性が走ってきて僕の体を支えてくれた。

支えてくれなくても一人で立っていられたけど、いや立っていたつもりだけど、右に左に地面が（体感２～３ｍ）勝手に移動するなんて生れてはじめての体験だから何が起きたか把握できていなかった。そうか、その16年前の阪神淡路の地震の時の皆さんはこんなものではない体験をしてたんですね。ＮＨＫラジオ深夜便の依頼でその地震の十日後ぐらい、大阪港から出る報道の船で神戸港に上陸し、以来一年ほど神戸を定点取材し続けましたが、被災した人の気持ちは理解出来ていなかったと、東急ハンズのあの揺れを（東北から離れた東京での揺れではあったが）体験したことで、ラジオ深夜便の時のぼくの理解など阪神のみなさんにまったく届くものではなかったのだとつくづく思っている。

東急ハンズから話を先に進めるとね、新宿駅新南口で立ち往生したぼくは、線路をまたいだ向こう側のカタログハウス本社ビルに避難した。幸い、ゆめ風担当でお馴染みの神尾京子さんが在社していて、歩いて一緒に帰りましょうと誘ってくれた。神尾さんの住まいは、僕と同じ練馬区石神井公園圏内だった。神尾さんと当時カタログハウス所属だったお連れ合いの大竹さんと三人で甲州街道を下り始め、とりあえず阿佐ヶ谷駅まで 3時間かかって到着。目の前のバスターミナルで中村橋行きのバスが出ようとしている。行き先が少し違う神尾さんたちに別れを告げ、慌てて中村橋行きのバスに飛び乗った。

ここで話は 3･11 から 16年遡って、阪神淡路大震災に時を移動。滋賀に住む僕の友人は、交通が寸断された陸路を徒歩で自分の友人たちが住む西宮に向かい、無事生存を確かめるやすぐに踵を返し滋賀に戻り、リュックに三台の卓上コンロと入るだけのガスボンベを詰め込み、再び陸路を西宮に向かった。温かいものを口にすることのできた友人たちに喜ばれたのは言うまでもないのだが、ガスコンロ氏は僕に、「小室さん、自分に出来たことは、ガスコンロ三個分でしかなかった」と自嘲気味に語った。

自嘲どころか、人の温かさ、血の通った行動。それに引き換え、話を 3･11 に戻せば、ガスコンロはおろか、三時間の道中を連れ添ってくれた神尾さんたちを置き去りにし、そそくさと自分だけ家路を急ぐ、まあなんて薄情なぼくでありました。

そう、3・11 から 10年が過ぎたんだね。

いろんなことがあった。

呼び掛け人代表の座を約束の10年で勇退し、しかし引き続き権（準）代表を表明した永六輔さんは、事あるごとに「ぼくをどんどん利用してね」と言い続けてくださった。そんな永さんの希望で、ゆめ風が整えてくれた地震後の東北行きにお供をさせてもらったり、頼りにしていた河野秀忠さんが断りもなしに逝ってしまったり、と思っていたら永さんにまで逝かれてしまい、そうかと思えば東京でのゆめ風イベント担当の神尾京子さんが、カタログハウスを卒業されたのでどうなることかと思っていたら、ゆめ風イベントは残ってくれるというので胸を撫で下ろしたり、いろんなことがあるけど、実務に携わる代表の牧口さんをはじめ、名前を挙げていけばきりのない心強いスタッフたちの力で活動を継続させてきたゆめ風基金に、僕は心から敬意を表します。

もちろん、様々に支援してくださったみなさん、なにより寄付をし続けてくださったたくさんの人々の思いというものが、この活動を支えてくれたことは言うまでもないことです。今は亡き権代表永六輔さんの意を継ぎ、呼び掛け人としての微々たるお手伝いしかできませんが、このコロナとも、みんなでうまく付き合いながら、これからも元気にやっていきましょう。

被災地から

東日本大震災から十年が経とうとしていますが　福島県郡山市　ＮＰＯ法人あいえるの会　しらいしきよはる（しらいしさんが電動車いすに乗っている写真）

2011 年 3 月 11 日　東日本大震災があり、それに伴う福島第一原発の爆発により、福島県では復興までにはまだまだほど遠い時間がかかりそうです。

東日本大震災が起こり、早い段階でゆめ風基金やＪＤＦ（日本障害フォーラム）などの団体の全面的支援により「JDF被災地障がい者支援センターふくしま（以下支援センターと略す）」を立ち上げて、

福島県内外に避難された障がい者の支援活動を行うことができました。

支援センターでは被災地である相馬、南相馬、いわき方面に支援物資を運ぶことから始まり、福島県内の避難所及び仮設住宅の調査、南相馬の障がい者事業所に職員を補佐するボランティアの派遣、郡山市内に避難している障がい者との交流を図るサロンの開設、福島県内の障がい者の避難拠点を相模原市に設ける活動、他の業務の人たちを福祉事業所等に紹介する「福祉マッチング事業」、福島県内外の被災障がい者の相談を行う相談員を支援センターにおいて相談事業を行ったことなど、被災地での支援活動を広範囲にわたって行なってきました。「金の切れ目が縁の切れ目」ということにはしたくなかったのですが、人材と活動資金が無くなったので、後ろ髪を引かれる思いで、最後の宿題であった避難した障がい者に関する実態調査を行い、それらをまとめた報告書を発行して、2016年4月をもって支援センターは解散いたしました。

なお、支援センター解散後も開設した交流サロンは残っていて、郡山市に残っている被災障がい者と、郡山市の障がい者を集めての就労継続支援B型としての事業と、被災した事業所との連携で新たな商品を作る事業を進めています。

支援センターの代表として活動をしていた私は、支援センターでの活動をやり過ぎたため、2回目の二次障がいを発症して、横浜市の病院に 2013 年 7 月より3か月間入院して頸椎を固定する手術を受けました。何とか復帰して郡山市に戻ってきましたが、全介助に近い障がいになってしまいました。そのことも原因となり、支援センターでの活動は諦めざるを得ませんでした。

現在は元の古巣に戻って、「あいえるの会」の理事長を務めています。

2019 年の台風 1 9 号に伴う洪水被害にて被害を被った幾つかの障がい者事業所がありました。

あいえるの会では被害を受けた場所も人もいなかったのは幸いでしたが、東日本大震災の際に培った「組織と人による絆」をもとに、被害を受けた事業所を運営している団体が集まり、被害状況を調査し、

郡山市に被害を受けた事業所の建物の補修等に関する要望書を提出し、郡山市議会議員にも働きかけていきました。支援センターでの活動の実績があったからこそ、迅速に対応できたと思います。

あいえるの会では 2020 年の 4 月に事務所と自立移行住宅・あーすろーどが完成しました。今後も我が国では大規模の災害が起こっていくことでしょう。その際には、あーすろーどの共用スペースを開放して、少しでも多くの被災した障がい者の避難所として活用したいと考えています。

10年分の応援を胸に再出発！　宮城県とめし　ＮＰＯ法人　かなみのもり　だざい　きょうこ

2020 年 10 月に開園した南三陸の震災復興祈念公園へ行ってきました。津波で43人が犠牲になった防災対策庁舎を眼下に望め、自然の脅威を感じられる場所です。あの日あんなに胸を砕かれたのに、穏やかにいる自分に少し驚きながら、忘れるから生きていられるんだと思いました。そしてだからこそ、忘れてはならないと強く意識しています。

かなみのもりは、東日本大震災で被災した障害者の支援をしようと立ち上がりました。より多くの人をサポートしたいと、活動場所を3カ所運営していた時期もあります。でも、支援者も利用者も集まらず、多くの方々の支援や助成金に頼る状況 でした。これは震災による人口減少 や地域の崩壊という原因もゼロではないでしょうが、自分たちの意識の問題も大きかったと思います。

法人理念の「障害があってもなくても誰もが自分らしく暮らせる地域」を実現するためには、今だけでなく未来を 考 えること、いい活動を継続できることが大切だと、2017年度から活動の転換に取り組みました。そして震災から10 年、今年6 月に放課後等デイサービスと就労継続支援B 型事業所を開所します。今までご支援いただいた人たちから教わったことを糧に、楽しい地域生活を提案していきます。これからも何卒よろしくお願いします。

（かなみのもりの新拠点「交ゆう館かなみ」上棟式写真）

10 年目のふくしま　福島県南相馬市　ＮＰＯ法人サポートセンターぴあ　あおた　よしゆき

東日本大震災から 10年目をむかえようとしています。私の心に刺さっている小骨があります。当時の総務大臣が、原発事故で亡くなった人は一人もいないと断言したことです。皆さんもそう思っている方も多いのではないでしょうか。ふくしまの災害関連死2316人は、ほとんどが過酷な避難、避難生活で亡くなった方たちです。原発事故がなければ亡くならずに済んだ人たちです。高い放射能を浴びて亡くならないと原発事故の影響にはならないのでしょうか。この大臣の一言が原発事故の過酷さを故意的に無きものにしたのと同時に、災害関連死への責任を隠してしまったのです。

同じことがふくしまの小児甲状腺がん252人（内手術実施203人）の子どもたちにも言えます。何度も言いますが県健康調査委員会では原発からの放射能影響とは考えられないと言い続けています。10年経過しても原因すら解明されていないにもかかわらず。

除染された汚染土はどんどん中間貯蔵施設に運ばれてきます。汚染水もまたタンクに入れきれません（汚染水はいつのまにか処理水に名前を変更している）。東電内の汚染水は収納タンクが足りなくなった理由で、海に放水しようとしています。ひたすら安全をアピールしていますが、加害者からの安全宣言は信用できません。

本当のふくしまを見てください。人が住めない場所があることを。帰って来いと言われ帰れない場所があることを。それでも障害者や高齢者は住み始めています。

双葉駅横に積み上げられた汚染土の写真、大野駅前の帰還困難区域ガード柵

あの日を忘れず。前を向いて　福島県川内村　NPO　法人輝き・のんびりハウスどじょう　おおうち　まゆみ

東日本大震災、そして原発事故。あれからもう10年を迎えようとしている。

今でも目を閉じるとあの時のことが鮮明に思い浮かぶ。

地震で揺れ動く景色を目の当たりにして、車が左右に傾く。ダッシュボードを必死につかんでいた。いつまでたっても揺れは続いた。周りの家から瓦がバタバタと音を立てて落ち、門柱が倒れた。「とんでもないことが起きている」。普段と違う尋常ではない揺れに恐怖を覚えた。

その後の原発の爆発。必死に遠くへ逃げようと車を走らせた。

2012 年 1 月。私の故郷である福島県川内村はいち早く帰村宣言をした。まだ、除染が始まり間もない時期だった。

高齢者、障がいを持つ方々や家族が避難先で窮屈な生活を強いられていた。いち早く戻った川内村には集う場所がなく家の中に閉じこもりじっとしていた。避難した月日は精神、そして身体機能を低下させていった。

川内村には、震災前から障がい者のための施設はなく何とかしなければと立ち上げたサロンどじょう。3名の利用者が集まった。関西方面から多数の支援者が1年間手伝ってくれた。

県からの復興支援により徐々に帰ってきた人たちが集まってきた。

何もかも手探りで進んできた。資金も設備もなくゆめ風により多大なるご支援をいただき、障がい者が集まれる居場所を提供できるようになった。

村のあちこちに灯りが増えていった。村の再生は徐々に進み村民にも笑顔が戻った。隣の人を気遣う村民性を輝かしく思った。

平成30年には村で初めて障がい者就労施設「のんびりハウスどじょう」が開所し、障がいを持つ人たちが自分にできる仕事を自信をもって請け負っている。

一人一人は小さな力でも皆で集まり形にしていくことは、大きな励みとなり将来の希望となっている。

あの日から 10年。地震、原発事故、台風被害、コロナウイルス感染症、様々な被害にあいながらも皆

で手を取りあって前を向いて突き進んできた東北人、いや川内村民。お互いを思いやる東北魂 が前に突き進み村を支えている。

現在、川内村の人口は震災前と比べ 8 割戻ったが若い世代の村離れは今も続いている。

今、川内村には工場がいくつか建ち、震災後よその土地から移住した若い人たちが 働 いている。人と人とのつながりが村を繁栄させ、人々を豊かにすることを新ためて気づかされた 10年となった。

コロナウィルス感染で不安な日々を送っているが、人を思いやる心 と気遣いで行動することが大切な人や故郷を守ると信じている。

震災から十年　　福島県二本松市　ＮＰＯ法人アクセスホームさくら　わたなべ　ゆきえ

東日本大震災と原発事故から、十年となる節目の年を迎えました。

浪江町は、いまだ町民は避難生活が続いていますが、少しずつ復興が進み、スーパーや道の駅がオープンしたり、町の景色が変わってきています。

震災から少しずつ立ち上がろうとしていた矢先、新型コロナウイルスの脅威に世界のすべての人々が不安な日々を送ることとなりました。

物の不足や、誤った情報などに影響されたりと、社会問題となっている事も、一つの「災害」なのだと思います。台風による水害、土砂災害など大きな自然災害も後を絶ちません。

十年前、私たちは「一瞬にして、日常の景色が変わってしまう」経験をしました。

何でもない平穏な日常は、あたりまえではないということも、いろいろな災害を通して思うところです。思い起こせば十年前、全員が避難状態となり、みんなの居場所作りから始まった事業再開は、十二名の利用者さんと五名の職員でスタートしました。少しでも「いつも通り」を増やしていくことが復興の第一歩と考え、目の前の課題に取り組んできました。古民家から始めた事業所も手狭となり、三年後には「ゆめ風

基金」の支援を頂き、現在の二本松事業所を新設することもでき、今年で七年目となりました。十年の間に利用者さんの生活はいろいろに変わり、転居で「さくら」を離れた方、一般就労に移行された方、今では、二十四名の利用者さんと、九名の職員に増え大所帯となりました。利用者さんのほとんどが、地元の方となり、地域の福祉の資源としての役割を担っています。走り続けてきた十年間、いろいろに変わってきましたが、これからも「さくら」の笑顔を大切に進んでいきたいと思っています。

福島に寄り添い、協力を惜しまず手を差し伸べてくださった全国の皆様へ感謝いたします。

（昨年6月にさくらんぼ狩りに行きました！　という写真）

ろうきんさんから

東日本大震災から10年支援の思いを忘れない　近畿労働金庫　理事長　いしむら　りゅうじ

東日本大震災の発災当時、近畿ろうきんは甚大な被害を踏まえ、支援の手が届きにくい方への長期的な支援が必要だと考え、「被災された障がいのある方」を支援する「ゆめ風基金」と、「被災により親御さんを亡くされた子どもさん」を支援する「あしなが育英会」に対し、10 年間に渡り寄付を行う「東日本大震災復興支援定期　サポートＶ」の取組みを行ないました。会員労働組合を中心とした皆さまと一緒に取組みを行い、10ヶ月間で約161億円ものご預金、支援 の思いを結集いただき、2012年度以降、前年度末のサポートＶの残高にもとづき、毎年度、「ゆめ風基金」と「あしなが育英会」に寄付を行ない、9年間で総額1 億 4830 万円の寄付金をお届けしました。寄付金は、「地震・津波で全壊した障がい者作業所・グループホームなどの再建・整備費用」や、「被災により親御さんを亡くされた子どもさんを支援する東北レインボーハウスの建設費用や運営費用」などに活用いただいています。寄付先団体から「震災から一定期間が経過し、報道も減る中、近畿ろうきんからの毎年の寄付により、忘れないという思いが被災地に伝わり、このことがどれほど心に灯がともり、勇気と力が湧いてくることか、はかり知れない」という声をいただくなかで、あらためて長期的な支援の必要性を実感しました。2019年10月に開催した

「サポートＶ報告会」では、福島県のNPOの方から「いつ復興と言えるかわからない」といった被災地のみなさまの本音も多くだされました。近畿ろうきんはこれからも東北の被災地のみなさまに寄り添いながら、必要な支援を続けていきたいと考えております。

（支援先に貼られている近畿ろうきんのプレートの写真）

ゆめ風から

言葉にできないつらさ・かなしさ・せつなさを思う時

代表理事　まきぐち　いちじ

齢も八〇を超えると時の流れがいっそう速くなる。東日本大災害の後しばらくして仙台の障害者支援センターを訪れて、大震災とそれに伴う原発大事故の話を聴いたのは一〇年ほど前のこと。とくに忘れられないのは、やはり津波の怖さ。なんとも辛い話だった。グループ仲間の健常者がどう表現していいのか迷いに迷いつつ吐露してくれた。仲間の障害者と一緒に高台にいて、いつも眺めている穏やかな地平線が、一〇メートルほどの高い波に代わっていて長い壁となり、陸に向かって押し寄せてくる様を眼の当たりにし、とても共に逃げ切れないと察知した障害者の一人が「俺を気にせず、俺の分も生き延びてくれ。速く逃げろ！」と叫んで高波に呑み込まれていった、という話。その声がずうっと耳の奥で続いていると……仲間を救えなかった人たちの心情を想うのみ。

もし仮に、ボクが同じ事態に直面したならば、おそらく、そう多分……彼と同じような言葉を発していただろう。だが、まちがっても美談にしないでほしい。その時のボクは、一人でも死者を少なくしたい、ただそれだけの思い、精いっぱいの自己主張。

そんなことを気付かせてくれた東日本災害だったが、いまコロナ騒動で“能率よく”一人でも多くを救うための「トリアージ」が話題になっている。裏を返せば「命のランク分け・命の選別」。欧米でも「高齢者や

障害者は後回し」「自分から遠慮してほしい」と露骨に発言するらしい。そんな強制なら「共生」どころか「共倒れ」を求めてしまうイヤな自分がいて、とても不本意な自分に震えながら、そうならないよう普段から「いざっ！」に備えておきたい。

第 11 回「東北⇔関西⇔九 州ポジティブ生活文化交流祭」オンライン開催を終えて

ポジ祭実行委員　しいな　やすとも

・・やりとりすることが大事だと痛感した。

東日本大震災からまもなく10年。被災障害者救援活動は災害時に誰一人取り残さないことが大事だ。そのためにも平時から地域や立場を越えてつながり合う。

いつもなら各地から何千人も集まり、旧交を 温 める。距離も関係性も＜超密接＞であることを大切にしてきた「ポジ祭」。

人が集まり、接触したら感染する危険性が多いコロナ災害下でも、簡単に「はい、中止」で済ませたくなかった。

感染予防は大切だが、人の縁や関係性が分断されることを選択したくはない。

「どんな 形 でもやろう」「協力できることはするよ」と声をかけて 頂 きながら、3時間のオンライン番組を制作。

阪神淡路大震災以降ということで、神戸の 話 を振り返る。東北の現状を聞く。熊本からも報告。大阪からも発災直後に現地に 行 った面々の語り。関西発で毎年出展してくれている団体がメッセージ。いつもステージで聴いているダンスや歌を。

50 を超える団体が参画。手話や映像発信に周囲の協力があり、開催できた。

手話通訳にまつわることで「各団体の名称の由来は？」と聞かれそれを調べたり、連絡したり・・その中で

この団体の思いって、そうなんだ。逆にこちらが問うことで思い出しながら答えてもらったり。

一堂に会せなかったが、双方向なやりとりが出来たこと。

被災障害者救援活動にとって大切なのは、互いに「大丈夫？」と訊きあえること。社会性やアピールもあるが、広く濃く互いの付き合いをつくってきた。例年とは違えど、みんなで一緒にできた。今年もこれからも・・私的にも公的にも何かやりとりを続けていけたら嬉しい。

この「ポジ祭」がみなさんのつながりの一端になるのなら、今年も開催したい。

（写真　2020年11 月 23日配信の様子）

カンパをいただいた団体

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。

本当にありがとうございます。

9/8　NPO法人ほほえみの間（郡山市）,八幡浜市コスモス共同作業所（愛媛県）,ほっと　はあと（総社市）

9/11、11/11　笑顔基金（平野区）

9/14　ひまわり会（京都府向日市）　,やました甲乙鍼灸院（大阪市中央区）

9/15　サポートネット・マザーズ

9/16　そよかぜ（箕面市）,なこそ授産所（いわき市）

9/17,10/16,11/18　ホームベース（枚方市）、9/17,10/19,11/16　健康アメニティたのし(新宿区)

9/23　共に結（江戸川区）

9/26　なごみ薬局（松山市）

9/29　聖ヨハネ教会女性の会（大阪市中央区）,いーはとーぶ（さいたま市）,久保田潤一郎クリニック（豊島区）

10/2　得雄寺(南松浦郡)

10/2 ハートフル親の会(大東市)

10/5 旭川翔輝会かがやき工房(旭川市)

10/8 TOLI協(東京都世田谷区)

10/9 回想療法センター鳥取ゆめ工房こばちゃん(鳥取県八頭郡)

10/9 遊の会 (広島県福山市)

10/13 障害者格闘技イベント焔HOMURA(練馬区)

10/14 くるん(大阪市)、田辺三菱製薬宮城営業所

10/15 みんな農園(倉敷市)

10/27 妙元寺(名古屋市)

10/28 麦っ子畑保育園(座間市)

10/30 自立生活センター松山(松山市)

10/30 坂町心身障害児者 ゆずりはの会(安芸郡)

11/9 アシスト三重(松阪市)

11/16 ほのぼの(明石市)

11/27 絆の会(札幌市)

事務局のうごき 2020年10月から12月の動きを一部ご紹介します。

10/14 摂津市講演

10/20 職員採用面接

10/21 ポジティブ生活文化交流祭実行委員会

10/23 おおさか災害ネットワーク世話役会

10/26 ＮＨＫ取材

10/28 ＢＣＰ研究会

11/5 ポジティブ生活文化交流祭打ち合わせ

11/8 BCP研究会避難所訓練

11/12 ポジティブ生活文化交流祭リハーサル

11/16, 17 大分県社旗福祉協議会講演

11/18 月間福祉労働依頼原稿入稿

11/19 名古屋講演打合せ

11/23 ポジティブ生活文化交流祭（web）

11/25 理事会

12/1 ラジオ大阪取材

12/3, 4 通信93号発送作業

12/9 おおさか災害ネットワーク世話役会

12/9 京都講演打合せ

12/10 富山講演打合せ

12/16 京都コリアン生活センターえるふぁ講演

12/17 豊田市講演収録

12/19 自立生活支援センター富山講演（web）

12/21 茨木市平田中学校講演

会計・救援金 別紙にて

そよ風、つむじ風、六甲おろし　各地からの風だより　2020/09-2020/11

◈厳しい状況が続いていらっしゃることでしょう。いつも遠くから応援しています。笑う門にはきっと福が訪れます♡（横須賀市）

◈4人の孫の誕生月にすこやかな成長を願ってお送りします(藤沢市)

◈皆さんご無事ですか。ちゃんと眠れていますか。心も体もどうぞお大事に（荒川区）

◈2007年の法人設立の際、基金を使わせて頂きました。なにかできることがあればと思っています（和泉市）

◈コロナ禍で心が病んでいるのに災害までが重なると頑張ってくださいと言えない気がします。みんなで助け合うことでしょうね（東大阪市）

◈少しですが障害者の方々にお役に立てればありがたいです（箕面市）

◈故・永六輔さんに感謝して（加賀市）

◈現場で活躍される皆さんにエールを送ります。感謝です！！（高槻市）

◈文明国家の基準は弱者に対する態度であると思う（金沢市）

◈助け合いを！お互いさまだから（練馬区）

◈藤原さんのエッセイで被災した障害者女性が避難をきっかけに自立できたということに励まされました（横浜市）

◈デジタルの社会になりつつ永先生のお声が聞きたい心境です。少額ですが（習志野市）

◈ゆめ風だより、ありがとうございます。コロナ禍が続く中、少しばかりですが。コロナ禍で作業所の給料はここしばらく40～50％支給。ボーナスはなし。それでも仕事があるだけありがたいというべきか

…みなさんどうしてますか？（福島区）

◈安心してくらせる日が来るまで、とにかく元気で支えあって生きましょう（仙台市）

◈毎年、年の初めに今年こそおだやかな年になるよう願っているのに…こまっているだれかのために（札幌市）

◈厳しい時代になりました。何とか助け合って生き延びたいものです（船橋市）

◈新型コロナウィルス感染拡大のため在宅勤務をしています。規則正しい生活をし、免疫をつけていきましょう（松山市）

◈本当に大変でした。今後も末永くご支援させてください。前を向いて頑張りましょう（神戸市）

◈災害救援金等の御報告、そして様々な課題等をお知らせ頂きありがとうございました。これをもって最後にしたいと思っています。長い間本当にありがとうございました。御発展をお祈り申し上げています（雲南市）

◈これからどんな世の中になればよいのか！ 考えねば！（茨木市）

◈思いがけず手術のために10日余り入院しました。まことに不安で怖かったけど幸い初期で追加の治療せずに経過観察で良いとのこと。永さん、もう少しこちらで活動のお手伝いさせて頂きます（浦安市）

◈ゆめ風と永六輔さんや秋探し　お元気で、合掌(東京都中野区)

◈マスクを着けれない人もいる。それも受け入れる社会を!(小松市)

◈会報いつもありがとうございます。(長岡市)

◈たよりを送っていただきありがとうございます。ゆめ風応援団、いい企画ですね。(大阪市)

◈職場(学校)で管理職のパワハラと戦い続けて3年目。たとえかき消されても声を上げ続けます。ゆめ風のように小さな力が広がれば大きな力になることを信じて(八王子市)

◈国民の声が届かない政府に失望しています。1日でも早く必要としている皆さんに届けてあげてくださ

い。続けます。(千葉県佐倉市)

◈緊急事態の中、報道されることなく、困難な中、生活されている、又支援してくださる方にわずかですが役立てれば。(新宿区)

◈チャリティトートバッグを作成し、売り上げから原価と送料を引いた金額を寄付させていただきます。一日も早い復興をこころから祈っております。(練馬区)

◈申し訳ありませんが、なかなか支援できかねます。今後会報の郵送を辞退させていただきます。(都城市)

◈コロナ禍で多くの作業所が活動に困難があると思います。頑張って下さい(那須塩原市)

◈クレジットカードを使えるようにしてください(飯山市)

編集後記　この 94号を編集中に、福島県沖を震源地とする震度6強の地震が発生しました。10年前のことを思い出し怖い思いをしたという声をたくさん聞きました。今年は災害が少ないことを願います。

ゆめ風ネットワーク連絡先[fax は 06-6321-5662 迄]さっぽろ 011-817-9080 秋田 018-846-3916 みやぎ 0220-44-4171 いわき 0246-68-8925 新潟 024-232-7522 三条 0256-34-2448JDS(東京)03-6907-1824 東大和 042-567-2622 立川 042-525-0879 横浜港北 045-431-4070 千葉 047-485-1245 埼玉 048-738-4593 上田 0268-39-4568 静岡 054-288-6068 きくがわ 0537-35-8303 愛知 052-841-9888 名古屋 052-745-1001 岐阜 058-388-1864 加賀 076-243-6786 富山 076-444-3753 福井 0776-27-2621 三重 059-202-5782 滋賀 077-543-2844 京都 0774-93-3277JCIL(京都)075-671-8484 奈良 0745-42-2919 和歌山 0737-82-4060 わかやま 073-472-6731 伊丹 072-783-4991 ひょうご 078-642-0142 はりま 0792-84-4668 淡路島 0799-70-6145 明石 078-913-5315 しまね 0854-83-2183 かがわ 0877-73-4177 愛媛 089-924-8533 まつやま 089-986-3245 今治 0898-54-4365 徳島 088-602-1003 ひろしま 082-294-4185 尾道 0848-38-9551 やまぐち 0833-76-0550 福岡 094-962-6003 宇佐 0978-32-3365 ながさき 0957-46-3858 諫早 0957-28-3800 さが 0952-74-4568 熊本 096-366-3329 みやざき 0985-31-4800 かごしま 0994-63-8855 沖縄 098-958-2912